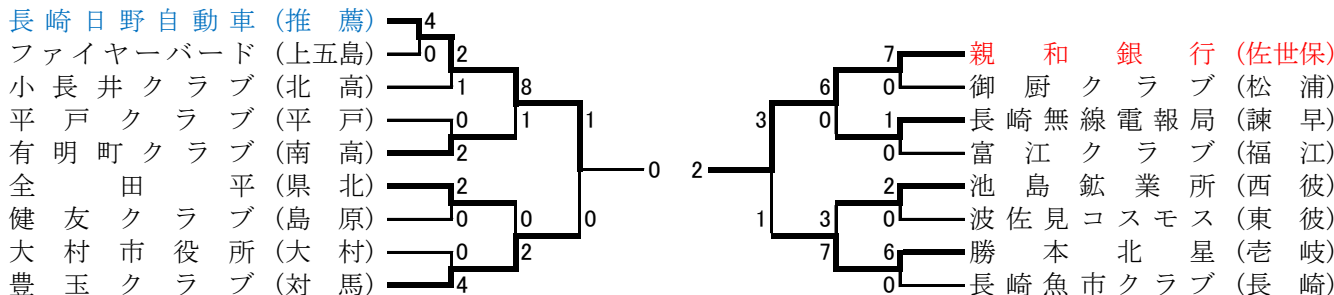


日野ー親和の4年連続決勝対決は親和がV4を阻む

第32回長崎県軟式野球選手権大会

会期： 昭和57年11月21日(日)～23日(火)
会場： A・大橋球場 B・長崎商高球場



この大会より島原・南高代表が分離して県下16支部の代表に推薦(前年度優勝)チームの17チーム参加となった。第32回大会は第1日が大橋球場で二回戦の5試合を行ない、長崎商業高校グラウンドでは二回戦の4試合。第2日が大橋球場で三回戦4試合。最終日の

23日に準決勝、決勝の3試合を行なった。ベスト4に進出したのは昨年優勝の長崎日野自動車と、準優勝の親和銀行。離島の壱岐、対馬から参加の勝本北星と豊玉クラブ。決勝戦は4年連続同じチームの対戦となった。
(昭和57年11月22日付けの長崎新聞より抜粋)

【ファイ】打安点

⑥坂口	3	0	0
④湯川	3	0	0
⑨浜崎	2	0	0
H犬塚	1	0	0
②鉄川	3	1	0
⑦原	2	0	0
③品川	2	0	0
①白岩	2	0	0
⑧堀江	2	0	0
8木下	0	0	0
⑤山本	2	1	0
			22 2 0

日野 ソクなく加 点

【一回戦】◇大橋：第1試合◇ 振球犠盗失残併

ファイヤーバード	000 000 0	0	6	1	0	0	5	2	0
長崎日野自動車	002 200 X	4	1	1	0	3	0	5	0

【評】日野は三回一死後にゴロ失に出た石本が二盗。捕手の悪送球で三進のあと、岩下の三遊間突破のタイムリーで先制。その岩下も二死後に二塁手からの一塁悪送球でかえって2点目。四回には下位打者の連打で迎えた好機に岩下が再び中前に2点打し勝負を決めた。ファイヤー打線は中村ー岡田の継投に2安打を散発したのみで、完封負けを喫した。

【日野】打安点

⑧岩下	3	2	3
⑨有川	2	0	0
③2木村	3	1	0
①3中村	3	0	0
②1岡田	3	0	0
⑤鶴嶋	3	0	0
⑦川良	2	1	0
H7樋本	1	0	0
⑥岡村	3	1	0
④石本	3	0	0
			26 5 3

【平戸】打安点

⑨松山	2	0	0
⑤林	4	0	0
⑥1正木	3	1	0
③古川	2	1	0
①6井手	2	1	0
⑧高本	3	1	0
②上村	2	0	0
⑦石田	1	0	0
H森田	1	1	0
7宮田	1	0	0
④作江	2	0	0
H浦田	0	0	0
			23 5 0

拙攻に泣く平戸ク5安打生かせず

【二回戦】◇大橋：第2試合◇ 振球犠盗失残併

平戸クラブ	000 000 0	0	0	5	2	1	2	9	0
有明町クラブ	001 001 X	2	3	4	2	2	0	7	1

【評】相手守備陣の乱れに乗じて三回に1点を先行した有明は、六回にも吉田正の適時打で加点し有利な試合展開。平戸は有明と同数の5安打を記録したが拙攻の連続。四回は林のスクイズが投手の正面をついて森田が憤死。七回は連続四球の無死一二塁の好機を迎えながら送りバントが投飛となって一走と併殺。正木の三遊間安打で本塁をついた浦田が好返球で刺されるといった具合で1点も報えなかった。

【有明町】打安点

⑤永田	3	0	0
①6松田	3	0	0
②吉田浩	2	0	0
⑥1宇土	3	1	0
③竹之内	3	2	0
⑨吉田朝	1	0	0
⑧吉田正	2	1	1
⑦金子	2	0	0
④酒井	2	1	0
			21 5 1

【全田平】打安点

⑧川上	3	0	0
⑨橋口	3	0	0
⑥中村	3	2	0
①稲沢	3	1	1
⑦柴山	3	0	0
④島本	3	1	0
⑤下田	3	0	0
③田川	3	0	0
②中倉	3	2	0
			27 6 1

稲沢の活躍で全田平が勝つ

【二回戦】◇大橋：第3試合◇ 振球犠盗失残併 1時間25分

全田平	001 001 0	2	1	0	1	3	1	5	1
健友クラブ	000 000 0	0	2	3	1	2	2	5	0

【評】全田平は稲沢の投打にわたる活躍で初戦を飾った。三回の1点だけでは勝敗の帰すうは分からなかったが、六回に安打の中村を三塁に置いて中越え二塁打してダメ押し点をたたき出した。投げても走者を出しながらも要所を締めて健友打線を完封した。健友は立ち上がりの逸機が惜しかった。

【健友】打安点

⑥本多	2	1	0
⑤酒井誠	2	0	0
④中村芳	3	1	0
③9矢野	3	2	0
⑧田中	2	0	0
②香上	2	0	0
①中村秀	2	0	0
H吉田	1	1	0
⑨鬼塚	1	0	0
H3阪本	1	0	0
H森田	1	0	0
⑦酒井保	2	0	0
			22 5 0



4回表の豊玉クラブは無死三塁に平山を置き横瀬が左越タイムリー二塁打を放つ

【二回戦】◇大橋：第4試合◇ 振球犠盗失残併 1時間29分

豊玉クラブ	000 400 0	4	6	1	0	6	1	1	0
大村市役所	000 000 0	0	5	1	0	0	0	3	1

【三】平山

【二】横瀬、黒岩

4回に豊玉打線が爆発

【豊玉】打安点

⑥平山	3	2	0
⑤横瀬	3	1	1
①松尾	3	1	0
③松井	3	1	1
⑨黒田	3	0	0
⑦長郷泰	3	1	1
⑧小島	2	0	0
④長郷豊	2	0	0
4阿比留保	1	0	0
②末松	2	0	0
	25	6	3

【評】豊玉の左腕・松尾は切れのよいカ
ーブで六回二死まで四球とエラーの二人
を出しただけだったが黒岩に左二塁打さ
れノーヒットノーランは逸した。
打線も打者一巡した四回に先頭・平山
の左中間三塁打を口火にバント安打や盗
塁を絡めた機動力で一挙4点を奪って試
合を決めた。6安打のうち5本をこの回
に集めた効率のよい攻めだった。

【大村】打安点

⑤2池田	3	0	0
⑦黒岩	3	1	0
③池田由	3	0	0
①牟田	3	0	0
⑨5西	2	0	0
H安達	1	0	0
⑧西村	1	0	0
H橋本	1	0	0
②吉沢	1	0	0
H久保	1	0	0
9松尾	0	0	0
④高治	2	0	0
6浦	2	0	0
	23	1	0

日野、勝ち拾う 初の延長戦 息詰まる投手戦

【小長井】打安点

⑤土肥	3	1	0
⑧久保	3	0	0
⑥石丸	3	0	0
①村松	3	0	0
③黒田	3	1	0
⑨平田	2	0	0
④山崎	2	0	0
②植木	2	0	0
⑦馬場	2	0	0
	23	2	0

【二回戦】◇大橋：第5試合◇ 振球犠盗失残併

小長井クラブ	000 000 010	1	7	1	0	0	0	3	0
長崎日野自動車	000 000 011x	2	4	1	1	0	0	2	0

1時間38分

(延長9回・一死満塁制)

【評】七回を終って小長井2安打、日野1安打。互いにチャンスらしいものも無く無得点のまま大会初の一死満塁制延長戦に入ったが、8回は1点ずつで迎えた九回。無得点の小長井に対して日野が中村義の遊ゴロで決勝点を挙げた。小長井の村松と日野の中村の好投で息詰まる投手戦だったが日野が勝運に恵まれた。V4を狙う日野にしては打力が心もとない。

【日野】打安点

⑧岩下	2	0	0
⑨有川	2	0	0
③木村	3	0	0
H7中村義	0	0	0
①中村郁	3	0	0
⑤鶴嶋	3	0	0
②岡田	2	0	0
⑦3川良	2	0	0
⑥岡村	2	1	0
④石本	2	0	0
	21	1	3

親和が貫禄勝ち

【親和】打安点

⑧古川	3	2	0
1佐々中	0	0	0
⑨田中	3	1	1
H8石田	1	0	0
⑤竹山	3	0	1
⑦坂井	3	1	0
③一の間	2	1	0
4久住呂	0	0	0
④辻	2	0	0
H3小森	1	1	0
②黒石	3	2	4
①宮本	2	0	0
H9宮添	1	1	1
⑥岩崎	3	2	0
	27	11	7

【二回戦】◇長商：第1試合◇ 振球犠盗失残併

親和銀行	000 313	7	0	2	0	4	1	4	0
御厨クラブ	000 000	0	5	0	0	1	0	4	0

1時間25分

(六回コールド) 【三】古川、黒石 【二】一の間、黒石、萩尾

【評】御厨は四回に「記録に残らない、手痛いミスで親和の攻勢を招いた。この回の親和は先頭の古川が右越え三塁打。続く田中の打球は三塁左への平凡なフェールだったが三塁手が落球。この後に田中が中前打し先制。これで乗った親和は打線が爆発し、五回と六回にも加点し貫禄勝ちした。

【御厨】打安点

④古賀	3	0	0
⑨萩尾	3	1	0
③松島	3	1	0
⑧1中野	3	0	0
②北川	2	0	0
⑦酒井	2	0	0
7山川	0	0	0
⑥二の瀬	2	0	0
①春藤	1	1	0
1幸田	0	0	0
H8森田	1	0	0
⑤川上	2	0	0
	22	3	0

大石 長崎無線 がノーヒットノーラン

【無線】打安点

⑧西村	3	0	0
④入江	3	0	0
⑦富高	3	1	0
②岩井	2	0	0
①大石	3	0	0
③池田	3	1	1
⑨折元	3	0	0
⑥四方	2	0	0
⑤永江	2	0	0
	24	2	1

【二回戦】◇長商：第2試合◇ 振球犠盗失残併

長崎無線電報局	000 100 0	1	8	1	0	1	1	3	0
富江クラブ	000 000 0	0	7	0	0	1	0	1	0

1時間1分

【評】長崎無線の大石、富江クの平山両投手の好投で1点を争う投手戦を無線がワンチャンスを確実にものにした。四回の無線は一死から四球の岩井が二盗。二死後に6番池田が右前ライン際の渋いヒットで岩井が還り貴重な1点。ノーヒットノーランを達成した大石投手の力投が光った。

【富江】打安点

⑥石井	3	0	0
④福山	3	0	0
③片町	3	0	0
②田橋	3	0	0
①平山	2	0	0
⑦松下	2	0	0
⑧田中研	2	0	0
⑨田中良	1	0	0
H9松倉	1	0	0
⑤福島	2	0	0
	22	0	0

【波佐見】打安点

⑧松尾	2	0	0	
⑦久保坂	2	0	0	
⑥田中	3	1	0	
③山下	3	0	0	
4田崎	0	0	0	
⑤馬場	3	0	0	
⑨太田	1	0	0	
③朝長	2	0	0	
H佐々口	1	0	0	
②河野	2	0	0	
①長崎	1	1	0	
		20	2	0

守備陣乱れ初陣波佐見消える

【二回戦】◇長商：第3試合◇ 振球犠盗失残併

波佐見コスモクラブ	000 000 0	0	4	3	2	1	0	4	1	1時間11分
池島鋳業所	002 000 X	2	4	1	3	2	1	2	0	

【評】三回の攻防がヤマ。浮き足立って守備の乱れの出た初陣の波佐見が涙をのんだ。この回の波佐見は相手失策などで一死二三塁となった好機に適時打が出ず無得点。これに対して池島は無死二三塁の場面に相手捕手が二塁へ悪牽制球。球が逸れる間にまず1点。さらに犠飛で確実に点を加え、勝ちを得た。

【池島】打安点

⑤戸高義	3	1	1	
④林田	2	1	0	
⑨小山	2	0	0	
9中田	1	0	0	
⑥戸高英	3	0	0	
③大始良	2	0	0	
3出口	0	0	0	
⑧野中	2	0	0	
②川崎	1	0	0	
⑦村崎	1	0	0	
①尾上	2	0	0	
		19	2	1

【勝本】打安点

⑥久田	4	2	2	
⑨4白川	3	1	1	
⑤尾形	3	0	0	
①3山	2	0	0	
③1中	4	1	0	
⑧原田	2	0	0	
H8山下	1	0	0	
②久保	2	0	0	
④山本	0	0	0	
9牧山	1	0	1	
⑦松川	1	0	1	
		23	4	5

勝本、6回に大量点を奪う

【二回戦】◇長商：第4試合◇ 振球犠盗失残併

勝本北星	000 105 0	6	2	6	4	2	1	5	1	【二】久田
長崎魚市クラブ	000 000 0	0	4	0	0	0	3	2	0	

【評】先行した勝本は六回打者9人を送り込む攻撃で大量点を奪い、食い下がる長崎魚市を突き放した。

この回、四球や中前打などで一死満塁の場面に勝本のスクイズに、長崎魚市内野陣がこの試合3個目の失策。この機に乗じた勝本は一気に攻め立て5点を奪った。

疲れの出た長崎魚市・古瀬投手の乱れも一因となった。

【魚市】打安点

⑥井手	3	0	0	
⑨峰	3	1	0	
⑧山下	3	0	0	
⑦松尾	3	0	0	
③松田	3	0	0	
②古川	2	0	0	
⑤和田	2	0	0	
④永吉	1	0	0	
H多比良	1	0	0	
4中ノ瀬	0	0	0	
①古瀬	2	0	0	
		23	1	0

大会二日目の22日は午前9時から大橋球場で準々決勝4試合を行った。第1試合は長崎日野自動車の上位打線が活躍し有明クラブの守備の乱れなどもあり大量8点を奪って五回コールド勝ち。第2試合は豊玉クラブが二回に今大会当たりの平山の三塁打などで先制すると五回にも平山の活躍などで追加点を取り全田平を押し切った。第3試合は初回に長崎無線電報局の大

石投手の立ち上がりを攻めた親和銀行が佐々田の好投などもあって6-0で快勝。勝本北星-池島鋳業所の離島チーム同士の対戦となった第4試合は先行された勝本が三回に相手守備のミスに乗じて逆転。五、六回にも点を加えて追いつがる池島を振り切った。

(昭和57年11月23日付けの長崎新聞より抜粋)

日野、前半で決める 有明ク惜しい守備の乱れ

【有明町】打安点

①松本	3	1	0	
⑤金子一	2	0	1	
②吉田浩	1	0	0	
⑥宇土	2	0	0	
③竹之内	2	2	0	
⑨吉田朝	2	0	0	
⑧吉田正	2	0	0	
⑦金子正	1	0	0	
④前田	1	0	0	
H長野	0	0	0	
		16	3	1

【準々決勝】◇第1試合◇ 振球犠盗失併残

有明町クラブ	001 00	1	3	3	1	1	6	0	4
長崎日野自動車	204 2X	8	0	1	2	4	1	1	3

【三】岩下 1時間7分

【評】有明が守備の乱れで自滅した試合。2点を先行された有明は三回、先頭の金子正が出塁し二盗。右前打とスクイズで還して1点差とし反撃の糸口をいったんは掴んだが、すぐその裏に日野の先頭岩下の三塁線を抜くゴロの当たりを左翼手が後逸し二塁打のところを三塁打にしてしまう。この後に内野陣が連続3失策。無死のまま4点を与えてしまった。

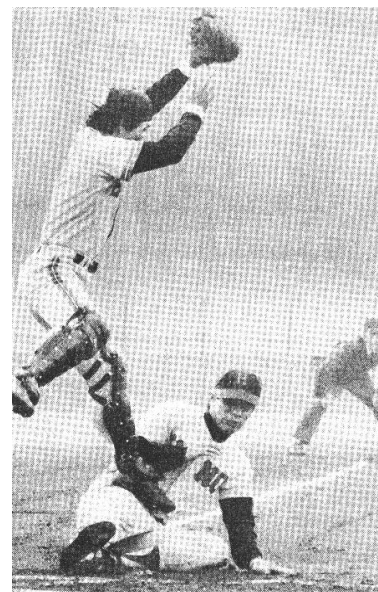
優勝候補の呼び声が高い日野は、この大量リードで四回からエースの中村に代えて岡田をマウンドに送る余裕を見せた。

【日野】打安点

⑧岩下	2	2	0	
⑨有川	3	2	1	
③2木村	3	1	1	
①3中村	3	0	1	
⑤鶴嶋	2	0	1	
②1岡田	2	0	0	
⑦筒井	1	0	0	
H7川良	1	0	0	
⑥岡村	2	1	0	
④石本	2	0	0	
		21	6	4

ホームイン

1回裏、日野一死三塁で中村の二ゴロの間に有川がホームを突き2点目。



豊玉が完封勝ち 全田平、走者を生かせず

【全田平】打安点

⑧川上	3	0	0
⑨橋口	3	0	0
⑥中村	3	0	0
⑦3稲沢	3	1	0
①7柴山	2	0	0
④1島本	2	0	0
⑤下田	2	0	0
③4田川	2	1	0
②中倉	1	0	0
21 2 0			

【準々決勝】◇第2試合◇

振球犠盗失併残

全田平	000 000 0	0	1	1	0	1	0	0	1	1時間30分
豊玉クラブ	010 010 X	2	1	5	2	2	1	0	7	【三】平山

【評】豊玉は初回到連続四球と暴投で無死二三塁の先制機は逸したが、二回二死走者一塁で平山の右越え三塁打で先制。五回には平山が無死から内野安打で出ると暴投とバントで三進。松尾の左犠飛で還って追加した。平山は前日から5打数4安打と大当たり。左腕の松尾にとって2点あれば十分。前日の1安打に続きこの日も被安打2と好調なピッチング。それにしても全田平は塁上に出た4人の走者のうち3人が投手牽制球やかくし球にサインの不徹底から二盗に失敗するようでは勝ち目は無い。

【豊玉】打安点

⑥平山	2	2	1
⑤横瀬	1	0	0
①松尾	2	0	1
③松井	3	0	0
⑨黒田	2	0	0
⑦長郷泰	3	1	0
⑧小島	3	0	0
④長郷豊	0	0	0
4阿比留保	1	1	0
②末松	3	0	0
20 4 2			

親銀鮮やか速攻 長崎無線 佐々田に涙のむ

【親和】打安点

⑧古川	3	1	0
⑨田中	1	0	0
H9宮添	2	0	0
9川口	0	0	0
⑤竹山	3	1	1
⑦坂井	4	1	0
③一の間	4	1	1
④辻	1	0	0
H小森	1	0	0
4久住呂	1	0	1
②黒石	3	0	0
①佐々田	2	0	0
⑥岩崎	2	0	0
25 4 3			

【準々決勝】◇第3試合◇

振球犠盗失併残

親和銀行	200 040 0	6	0	2	2	1	0	1	5	1時間12分
長崎無線電報局	000 000 0	0	4	2	1	0	5	0	3	

【評】親和は初回、無線・大石の立ち上がりを攻め先行。試合の主導権を握り終始試合を優位に進めた。初回到先頭の古川が内野安打。田中の犠打を大石がファンブルし竹山の右前打などであつという間に2点。これで前日にノーヒットノーランの好投を見せた大石が乱れた。ボールが先行し制球難。五回には先頭から二人を四球で歩かせて自ら窮地に。内野陣の動揺も誘ってこの回到3失策。結局ノーヒットで4点を与える始末。

親和の佐々田の力投も光り伸びのある直球を主体に攻めの投球。無線をあわやノーヒットノーランかという快調さだったが結局1安打に完封した。

【無線】打安点

⑧西村	2	0	0
④入江	2	0	0
②富高	3	0	0
⑦岩井	3	0	0
①大石	2	0	0
H折元	0	0	0
③池田	3	0	0
⑨天達	2	1	0
⑤永江	1	0	0
H5野田	1	0	0
⑥四方	2	0	0
21 1 0			

勝本、振り切る 池島はミスで自滅

【勝本】打安点

⑥久田	2	2	0
④白川	3	1	0
⑤尾形	3	0	1
①3山口	3	2	0
③1中村	4	0	0
9山本	0	0	0
⑧原田	4	1	1
②大久保	3	1	3
⑨1牧山	2	1	0
⑦松川	3	0	0
27 8 5			

【準々決勝】◇第4試合◇

振球犠盗失併残

勝本北星	003 031 0	7	1	5	2	7	0	0	6	2時間4分
池島鉱業所	100 100 1	3	7	7	1	2	4	0	9	

【三】戸高義、大久保 【二】山道、山口(勝)

【評】池島が立ち上がりに戸高義と林田の長短打で1点を先行し幸先の良いスタートを切ったが、守りでミスが続出。三回到四球とバント処理失に重盗が絡まって無死二三塁のピンチ。ここで尾形を三直に仕留め併殺かと思われたが二塁手に低投して二者を還した。さらに山口と原田に長短打を浴びて3点目。五回にも山口の中前打の後に二塁と一塁が平凡な打球を連失。大久保に満塁走者一掃の三塁打を誘発される始末。池島の先発・尾上は制球難、救援・山道は球威不足だったが守備がこれでは…。

この点、勝本の二番手の中村もコントロールが意の如くならず、ほめられた出来ではなかったが大量点に助けられた。

【池島】打安点

⑤戸高義	4	1	0
④林田	4	1	1
⑥戸高英	3	0	0
③出口	2	0	0
1山道	2	1	0
⑧小山	2	0	0
H栞山	0	0	1
②川崎	3	0	0
⑨中田	2	1	0
⑦村崎	1	0	0
H3大始良	0	0	0
①37尾上	2	0	1
25 4 3			

大会最終日の23日は寒気の流れ込みで肌寒い天候のもと大橋球場で午前9時から準決勝2試合と午後0時半から決勝戦の3試合を行った。第1試合は豊玉クラブが押し気味に試合を進めながら好機を生かせず無得点。対する長崎日野自動車は七回に初めて三塁へ進んだ走者が内野失策の間に還って1点を挙げ逃げ切った。第2試合は初回到に1点先行した親和銀行が、勝本北

星に詰め寄せられたものの宮本投手のうまい投球で勝本打線を抑えて順当に勝ち進んだ。4年連続同じチームの決勝戦は親和銀行が二回到に1点先行。長崎日野は六回到に無死二三塁と絶好の得点機に拙攻でチャンスをつぶし無得点。親和銀行が長崎日野のV4を阻み二度目の栄冠に輝いた。
(昭和57年11月24日付けの長崎新聞より抜粋)

豊玉、拙攻に泣く 日野 岡田が初先発で勝利

【日野】打安点

⑧ 岩下	3	0	0
⑦ 筒井	2	0	0
3 中村郁	1	0	0
② 木村	2	0	0
⑨ 有川	2	1	0
③⑦ 川良	2	0	0
H7 中村義	1	0	0
⑥ 岡村	2	0	0
① 岡田	1	0	0
⑤ 鶴嶋	2	0	0
④ 石本	1	0	0
19	1	0	0

【準決勝】◇第1試合◇ 振球犠盗失併残

長崎日野自動車	000	000	1	1	0	2	2	0	2	0	1	1時間30分
豊玉クラブ	000	000	0	0	2	2	2	0	2	0	6	

【評】豊玉は終始自軍の方に傾いていた勝機の流れを最後までモノに出来ずじまいで拙攻に泣いた。残塁は日野1に対し豊玉は6。得点機は徹底的に豊玉に多く特に悔やまれるのは五回で四球と連続敵失の無死満塁。ここで9番の末松が強攻策に出るが三ゴロ本封。続く平山のスクイズは投手正面への無造作なバントで本封。横瀬も2球目を投ゴロで一人も本塁を踏めず。もう少し迷細を呈した攻撃だったら、との後悔もあつただろうがバントなどの技術不足も否めない。これに対し、うまい配球と制球のよい豊玉の左腕・松尾を打ちあぐんでいた日野は七回到に遊失に犠打などで三進した一三塁で、一走が一二塁間に挟まれる間に中村郁が生還し、ワンチャンスを確実に点に結びつけるうまい攻め。岡田投手は公式戦初先発ながら重い速球で初完投勝利を挙げた。

【豊玉】打安点

⑥ 平山	3	0	0
⑤ 横瀬	3	0	0
① 松尾	3	1	0
③ 松井	2	0	0
4 阿比留保	0	0	0
⑨ 黒田	2	0	0
⑦ 長郷泰	2	0	0
⑧ 小島	3	1	0
④③ 長郷豊	2	0	0
② 末松	3	0	0
23	2	0	0

親銀の順当勝ち 勝本 宮本投手を打てず

【勝本】打安点

⑥ 久田	3	0	0
④ 白川	2	0	0
4 尾形	1	0	0
⑤ 山口	3	0	0
① 中村	3	0	0
③ 山本	2	0	0
⑧ 原田	2	0	0
②⑨ 大久保	2	1	0
⑨② 牧山	1	0	0
⑦ 松川	1	0	1
20	1	1	1

【準決勝】◇第2試合◇ 振球犠盗失併残 1時間12分

勝本北星	001	000	0	1	2	0	2	0	1	1	0	【三】黒石
親和銀行	110	100	X	3	6	4	0	7	0	0	3	【二】大久保、岩崎

【評】攻守に一日の長がある親和の順当な勝利だった。初回の親和は先頭が四球。次打者に2球投じる間に二盗と三盗し竹山の三遊間突破安打で1点。二回には三ゴロ失に生きた一の間が二盗。二ゴロ三進し黒石の適時打。1点差に迫られた四回には四球の岩佐が二盗後に黒石の右越え三塁打でダメ押し。捕手の弱肩を見越して塁に出ると走りまくり7盗塁。久住呂の捕前内野安打で二塁から岩崎が本塁を狙って刺された五回など、やや強引な走塁も目に付いたが、こうも走られては勝本の山口投手もきつい。勝本打線は親和の老練・宮本の一球ごとに球種を変えるうまいピッチングに快打が生まれず。六回まで安打は三回到に先頭の大久保が左中間を破る二塁打だけ。それを二つのバントで得点に結びつけ、一時は1点差に迫ったのが精一杯。七回到に代わった高藤にも3人で片付けられた。

【親和】打安点

⑧ 古川	2	0	0
④ 久住呂	3	1	0
⑤ 竹山	2	1	1
⑦ 坂井	3	0	0
③ 一の間	2	0	0
H3 小森	1	0	0
⑨ 岩佐	2	0	0
② 黒石	2	2	2
① 宮本	2	0	0
1 高藤	0	0	0
⑥ 岩崎	1	1	0
20	5	3	3

長崎日野自動車VS親和銀行の3年間の決勝戦プレイバック

第29回大会 S54. 12. 2 (佐世保野球場) 振球犠盗失併残

親和銀行	000	000	000	0	1	4	0	0	0	0	5
長崎日野自動車	000	001	00X	1	3	0	0	1	0	0	4

第30回大会 S55. 11. 3 (大橋球場) 振球犠盗失併残

親和銀行	000	000	001	1	4	1	0	0	1	1	2
長崎日野自動車	000	021	00X	3	3	0	0	2	1	0	7

第31回大会 S56. 11. 24 (大橋球場) 振球犠盗失併残

親和銀行	000	000	100	1	3	2	0	0	0	1	2
長崎日野自動車	000	000	02X	2	1	1	1	0	2	0	3

長崎県スポーツ史に掲載された記事より＝抜粋＝

○…親和銀行はどうも長崎日野 “=現在休部中、の中村郁郎投手が苦手。54年から3年間県選手権大会でひねられっ放し。60年の天皇賜杯県予選でもこの長崎日野と初戦で当たり、久しぶりに登板した中村に1点を返すのが精いっぱい。「練習試合で一人ひとりを研究し、ウィークポイントをつかんでいるから…」と吉田弘喜部長は言うが、親銀はなぜかオタオタ。その日野もいまは連盟に登録しておらず。親銀にとっては目の上のタンコブがなくなった感じ。(県スポーツ史 S63. 8. 1 発行)
(平井清光・前長崎県軟式野球連盟理事長・筆)

親和銀行

6年ぶり2度目のV

日野の4連覇を阻む 下手投げの高藤が完封

日野に惜しい 6回の逸機

【決勝戦】

振球犠盗失併残

親和銀行	010 000 001	2	4	0	1	1	0	1	3
長崎日野自動車	000 000 000	0	4	0	1	0	2	2	3

【二】古川、坂井 1時間54分

【親和】打安点

【評】ちょっとした判断のよし悪しで勝敗が左右されるケースがある。

この試合がまさにそれであった。

親和は二回一死後岩佐が一塁線を破る安打。宮添の二ゴロは平凡な当たりだったがエンドランがかかっていたため走者に気をとられたのか二塁手が大きく後にそらし一三塁。黒石の遊ゴロで併殺かと思われたが遊撃手が本塁に送球。これが野選となって岩佐が生還し(写真)先制点を挙げた。

この後日野の中村投手は三、四、七回に先頭打者を出しながら、三回は久住呂のバントをうまく処理して二塁打の古川を三封。四回は右越打で一挙三塁を狙った坂井を、右→二→三の好リレーでタッチアウト。七回は二直併に切り抜けたが、九回に久住呂に三塁線を破られ四度目の無死走者を出したのが命取りになった。親和は今度は手堅くバントで送り、坂井は当たりそこねの投手前内野安打。坂井が二盗後に岩佐の1-0で走者がスタートを切りラン・エンド・ヒット。当たりは投ゴロだったが中村の焦りを誘いお手玉する間に久住呂がホームを踏んだ。ここは親和ベンチが何らか策するケースであり、中村としては一球遊ぶべきではなかったか。この後はスクイズを外して、三二塁に走者を刺す好プレーはあったが致命的な追加点であった。

日野にとって惜しまれるのは六回の逸機。先頭の石本の二越え安打と岩下の犠打野選。しかも親和の黒石捕手が打球を右手薬指に受けて退場。代わった田中の捕逸で無死二三塁のまたとないチャンスだったが有川は二飛。木村は三振に倒れ、その際にエンドランがかかっており三走まで挟殺された。日野の好機といえばこの回だけ。過去3年間、決勝で親和を破ってきた日野だったが、この試合に関しては親和が圧していた。中村の神通力も通じなかったが、打線も下手投げの高藤に策が無かった。

⑧ 古川	4	1	0
④ 久住呂	4	2	0
⑤ 竹山	3	0	0
⑦ 坂井	4	2	0
③ 岩佐	4	2	1
⑨ 宮添	3	0	0
② 黒石	2	0	1
2 田中	1	0	0
① 高藤	3	0	0
⑥ 岩崎	3	0	0
			31 7 2

【日野】打安点

⑧ 岩下	3	0	0
⑨ 有川	4	0	0
③4 木村	4	0	0
① 中村郁	4	1	0
⑤ 鶴嶋	3	0	0
② 岡田	3	1	0
⑦ 筒井	2	0	0
H 井手	1	1	0
3 川良	0	0	0
⑥ 岡村	3	0	0
④ 石本	2	1	0
H7 中村義	1	0	0
			30 4 0



2回表親和銀行一死一三塁、黒石の遊ゴロ野選で岩佐が三塁から生還して先取点をあげる

来年は連覇を狙う 松尾敏正・親和銀行監督の話

大会前にチーム練習が十分できなかったが、その分を全員が個人練習でよくカバーしてくれた。近年になく打撃がよくなったのに加え若手とベテランが一体となった活躍の成果も大きい。長崎日野の4連覇を阻むことしか念頭になかったが、これを機に来年は連覇を狙いたい。

天皇賜杯第37回全日本軟式野球大会

S57. 8. 20～・群馬県太田市ほか 52チーム参加

【一】親和銀行 1-3 十一屋酒造(山梨)

第37回島根国体は本県から不出場

九州から福岡(2勝)、宮崎、鹿児島、沖縄(0勝)が参加

第4回西日本軟式野球大会〈1部〉

5/20～・大阪府 24チーム参加

【二】平戸クラブ 6-8 おかクラブ(山口)

第4回西日本軟式野球大会〈2部〉

6/4～・香川県 25チーム参加

【一】口之津ヤンガース 4-2 松下電子(京都)

【二】" 0-7 オール岡山野球クラブ

高松宮賜杯第26回全日本大会には本県から1、2部とも不出場

第34回長崎県民体育大会

10/30
諫早

小値賀町野球部(北松浦)	0
平戸クラブ(平戸)	1 0
長崎日野自動車(長崎)	3 1
海王(対馬)	2 3
箱崎クラブ(壱岐)	2 2
安中クラブ(島原)	3 3
諫早球友会(諫早)	5 2
田川スラッガーズ(東彼杵)	3 1
有明町クラブ(南高来)	2 0
奈良尾町(南松浦)	1 1
福江ビクトリー(福江)	1 0
大村市役所(大村)	3 0
電源開発(西彼杵)	5 1
肥前クラブ(松浦)	4 2
轟クラブ(北高来)	2 3
徳田クラブ(佐世保)	0